

平成30年7月

第1回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

平成30年度 第1回 白山市総合教育会議

日 時 平成30年7月24日（火）午後4時00分
場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会議事項

（1）教育施策に係る意見交換について

- ① 子どもの学校安全について
- ② 今後の小学校外国語教育について

（2）その他

4 閉 会

出席委員（6名）

白山市長	山 田 憲 昭
白山市教育長	松 井 毅
白山市教育長職務代理	橋 本 外 志
白山市教育委員	水 洞 満 子
白山市教育委員	北 田 朋 幸
白山市教育委員	竹 内 千恵子
白山市教育委員	小 寺 正 彦

欠席委員 な し

事務局出席職員

教育部長	松 田 辰 夫
次長兼教育総務課長	吉 森 昭 一
学校教育課長	古 川 孝 志
生涯学習課長	重 吉 聡
子ども相談室長	西 野 睦 美
文化財保護課長	徳 井 孝 一
スポーツ課長	東 俊 昭
松任図書館長	中 村 康 広
学校教育課主任管理主事	橋 本 康 信
教育総務課長補佐	笹 津 剛
教育総務課主幹	河 奥 裕 子

傍聴者 な し

開会 午後 4時00分

○次長兼教育総務課長（吉森 昭一）

定刻になりましたので、これより平成30年度第1回白山市総合教育会議を開催いたします。

◎市長挨拶

○次長兼教育総務課長（吉森 昭一）

開会にあたりまして、山田市長からご挨拶を頂きます。

○市長（山田 憲昭）

本日は、平成30年度第1回の白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために、多大なご尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

去る7月22日には、松任文化会館リニューアルオープンのこけら落としとして、「白山国際太鼓エクスタジア」が開催され、躍動感あふれる太鼓の音色とともに、華を飾りました。この生まれ変わった文化会館が、学校や地域等の各種発表会で大いに活用されることを期待もするものであります。

さて、3年前の法改正により、開催しております総合教育会議では、その時々に関面する課題について、教育委員の皆様と協議させて頂いております。

昨年は、教職員の多忙化について協議をする中、各種報告書の削減や部活動の休養日の設定など、実証するとともに、4月からはタイムレコーダーを導入し、各教職員の勤務時間を正確に把握。さらに、大規模小中学校におきましては、事務補助員10名を配置するとともに、中学校の部活動では、部活動指導員をモデル的に4名配置するなど、業務改善につながっているところであり、大変有意義な会議となっていると感じているところであります。

このような中、今年に入りまして、5月には新潟県におきまして、下校途中の小二

女兒が殺害され、6月には、大阪北部の地震におきまして、ブロック塀が倒れ、小四女兒が死亡するなど、痛ましい出来事が続きました。お亡くなりになられた児童のご冥福をお祈り申し上げるものでもあります。

このような、痛ましい事件や事故を受け、本日の会議では、子供たちの命を守る対策として、「子どもの学校安全について」を議題といたしたいと考えております。そして、もう1点は、次期学習指導要領の対応として、「今後の小学校外国語教育について」をテーマに意見交換を頂きますが、皆様の忌憚のないご意見をお願いいたしまして開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

○次長兼教育総務課長（吉森 昭一）

ありがとうございました。

それではこれより会議事項に移りたいと思います。議事の進行につきましては、主宰者であります市長にお願いしたいと思います。それでは、市長よろしくお願いいたします。

◎会議事項

○市長（山田 憲昭）

それでは、恒例によりまして、私が議事進行を務めさせていただきます。早速ですが、会議事項に入ります。本日は、皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願いしたいと思います。

まず会議事項（1）教育施策に係る意見交換についてであります。①子どもの学校安全について事務局より説明をお願いいたします。

○次長兼教育総務課長（吉森 昭一）

（資料1 「学校緊急通報装置設置状況について」）

○生涯学習課長（重吉 聡）

（資料2 「白山市の子ども見守り活動状況等について」）

《資料にて説明》

◎意見交換

○市長(山田 憲昭)

ただ今「子どもの学校安全について」についての説明が終わりましたが、委員の皆様からご意見をお聞きしたいと思います。

まず小寺委員からご意見を頂きたいと思います。お願いします。

○委員(小寺 正彦)

まず、子供の通学路の安全についてですが、特に夏休みに入った7月、8月の各小学校では、PTAや育友会等で一緒に通学路の危険箇所を点検する学校がほとんどだと思っております。そうした場合、せっかく今年、白山市子ども見守り連絡協議会も発足しましたので、地域との連携を密にしながら、その点検をできないかと思う訳でございます。できれば、点検を一緒になって行って頂きたいと思うわけでございます。以上でございます。

○委員(北田 朋幸)

私は、学校内の事です。

学校の防犯カメラ設置についてなんですが、あまりにも無い学校が多すぎて、防犯カメラがあることによって不審者が入って来た時でも、不審者や犯人など、特定の手がかりにもなりますし、また、不審者だけでなく、児童による殺害事件もあり、佐世保とか尼崎でも起きています。そういう学校周辺において色んな事件がないように、パトロールや防犯カメラ等で見とくべきではないか。現在27校あって、小学校では7校しか付いていない。12校が付いていない。中学校においても6校に防犯カメラが無いという状態で、あまりにも手薄ではないかと思しますので、ぜひ、防犯カメラの設置に関しては、早めに付けて頂きたい。

また、前期の学校訪問での学校緊急通報装置の設置状況についてですが、やはり大規模校でも付いて無いところが多く、沢山児童がいる所で不審者が入っても、いち早く先生方が確認して、非常ボタンを押せるところが無いとすると、防犯的には危ないのではないかと思います。蕪城小学校や松任小学校、東明小学校については、児童数が多いと思いますが設置されていない。中学校については、何一つ付いていない状態で、先生方が、刺股で対応するには、遅すぎるのではないかと思いますので、緊急通報装置が無い学校については、早急に設置して頂きたいと思っております。

○教育長職務代理人（橋本 外志）

平成13年に鳥越中学校の校長を拝命いたしました。その年の6月に、日本列島を震撼させるような大変ショッキングな事件が起きました。皆さんも覚えていらっしゃると思いますが、大阪教育大学附属池田小学校で、校舎内で8名程の小学生が尊い命を失ったという事件がありました。この事件をきっかけといたしまして、学校に部外者が入って来ることに対する規制、あるいは、警備体制を少し強化していくという傾向が高まってきたように思います。防犯ブザーの携帯とか、今ほど話が合った刺股の設置、そして、これまでの避難訓練は、火災発生の避難訓練でしたけれども、この時期から刺股を使った、不審者が入って来た時にどう対応するか、そういう避難訓練も学校で行われるようになったように思います。

それまでは、地域に開かれた学校と言う形で、ずいぶん進んできたのですが、その事件を契機に、やはり安全を重視する学校へと、若干転換するような感じを私は持ちました。

この事件の後で、今ほど状況にもありましたように、監視カメラの設置とか、学校に入ってくるお客さんにネームプレートの着用をしてもらう。それから、小学校では警備員を配置してもらい、集団登校に保護者や地域のボランティアによる見守りも少しずつ行われてきたように思っております。

私は平成21年に退職いたしました。その前年の20年に、学校保健安全法が改正され、21年度から施行されたと記憶しております。これによって、今ではどこの学校の管理運営計画にも載っている危機管理マニュアルの作成が義務付けられました。この21年の学校保健安全法の施行によって、各学校は安全計画を作成し、実施をする。危機管理マニュアルを作成する。職員への周知、訓練の実施等が義務づけられた。そこで学校は、保護者や警察等、関係団体・機関等への連携を深めていくようにと、校長は、学校環境の安全確保のために必要な措置を講じていく。というような事があったと記憶しております。

池田小学校の事件は、もう、大変なショッキングな事件で、従来まで学校は安全な場所であった、という安全神話が完全に崩れ去った一つのケースではないかな、と思います。そういう面では学校というのは、子供たちが集い、そして、人と人とのふれあいによって、人格の形成がなされる場所でありますので、生き生きと学習や運動の活動を行うためには、児童生徒の安全確保が、何よりも保障されるのが大前提である

うと思います。

そこで出された資料を見ておりますと、北田委員と少し重複するのですが、緊急通報装置設置状況は、小学校では19校分の13、設置率68%、中学校では設置がゼロ。小学校は通報ボタンがあるのが7校、インターホンがあるのが8校と、その表を見る限りでは、緊急通報装置設置状況では、明光小学校がきちんと整備されているのではないのか。残りの小学校の設置がやはり急がれますし、中学校では8校の早期設置が一つ求められるのではないかと思います。資料に写真が載っておりましたが、普通教室の非常通報押しボタンが6ページにあります。私も学校訪問に行くのですが、普通教室にこのような、インターホンと通報装置の押しボタンがあることに気がつきませんでした。今日的な社会状況を考えますと、少なくとも小学校の普通教室には、このような緊急押しボタンの設置が必要ではないかと思いますし、中学校にも順次進めて行っていただければなあと思います。

防犯カメラの設置状況については、小学校では19校分の7、設置率は37%、中学校では8校分の2、25%と。このような大きな社会的事件が起きてきている経過を含めると、もっと防犯カメラは設置されているのかなと、思っていました。意外と少ないなと感じました。児童玄関とか職員玄関はもとより、大規模校においては、校舎が大変広いので、教職員の見守り巡視の死角になるところも出てくるかと思えます。そういう面ではやはり、大規模校にしても数が少ない感じもしますので、生徒の安全を考えて、どういう所に何個設置していけばいいか、また、検討していく必要があるのではないかと思います。やはり、このような防犯システムを順次設置して有効活用していくためには、学校自身、教職員の安全教育に対する役割の分担を明確にしたり、あるいは、教職員自体の研修の実施が求められることはいうまでもないと思います。

それから、通学路の件です。資料にも載っておりましたが、市長さんもお話された、5月に起きた新潟の痛ましい事件、遺体が列車にひかれた事件がありました。通学路で児童生徒が被害にあう事件が発生し、大きな社会問題となっております。通学路での児童生徒の安全を確保するためには、保護者や地域のボランティアの協力のもと、やはり事件や事故が起こりにくい環境づくりに努めることが大切でないかと思います。

今年4月に、市子ども見守り連絡協議会が発足したことは、大変意義があることで嬉しいことと受け止めております。今後、各地区との情報交換とか、連携がより密

になることを願っております。それから、やはり学校と、道路管理者、警察あるいはPTA等が通学路の定期的な点検、また、結果に基づいた、適切な措置を講じていくのも必要かと思えます。各学校でも、防犯や防災などの地図が作成されていると思いますが、学校、家庭、地域が、危険な個所や児童生徒が駆け込める安全な場所についての認識を、共有化していくことが大切な事かと思えます。

最後になりますが、昨今、働き方改革が叫ばれている中ですが、児童生徒の通学路の安全に関しては、学校、家庭、地域が、応分の役割・責任を持つべきではないかと考えます。中教審では、登下校の対応、放課後の見守りについては、行政や地域が担っていくべきと、一つの考え方も示されています。ただ、子供たちの安全教育や教職員の安全教育の研修、PTAと連携しての通学路点検等は、学校も協力して対応していくべき問題だと思っています。これまでも各学校では、見守り隊との感謝のつどい、などが行われているかと思えます。鳥越小学校でも入学式の時に、見守り隊の方々を紹介したり、あるいは2月の終わりに、感謝のつどいをされていると聞いております。各学校でも行われていると思いますが、そうした取組は今後ともぜひ、充実して継続して行ってほしい。それから、見守り隊の活動の紹介や、一生懸命頑張っておられる様子のPR、そして、どこかでボランティア団体としてのなんらかの顕彰を、今後考えて行ったらどうだろうか、そういうふうに思います。

○委員（水洞 満子）

学校訪問に行った時に思う事ですが、校舎の造りです。

私の校区は広陽小と北辰中ですが、30年以上も前に建った建物のせいか、池田小の事件から、職員玄関はロックされていますが、児童生徒の玄関は間口も広くて、学校訪問などに行くと、小学校とかは、長休みの後に、職員玄関はロックされているのに、閉まっていなかったりして、はたから見ると、外部の人が入り放題のようになっています。そのような状態を見ると、昔は田舎とか家にも鍵を掛けなかったし、30年、40年前はのんびりした世の中だったのかなと思います。これから新しい学校を造る時には、学校の構造も考えていかなければいけないのではないかと思います。

しかし、広陽小学校も北辰中学校も耐震工事はされましたので、当分の間、新しい学校は建たない。そういった時に、基本、子供たちは、自分で自分の身を守るという講座等も必要かと思えます。

ニュースで見たことがあるのですが、金沢の小学校で、不審者がいたら大声を出す。

とか、走って逃げる。ある日突然何かが起きたら出来ないので、子供たちに伝える事をしていかないといけないのではないかと。また、ちょっと、スジが違いますが、溺れた時のために着衣水泳をしておく。溺れた時にどうやって浮かばせるとか、子供たちが自分の身は自分で守る、という講座も必要になってくるのかなと思います。そういった視点が必要だと思います。

○委員（竹内 千恵子）

資料を見せて頂いたときに、市役所的な目線では、財源がないと一斉に付けられない。一斉に付けたいのはやまやまだけれども、お金がないのでどうしようもない。大変よく分かるわけですが、ただ、一市民として、保護者としてこれを見た時に、ある学校は緊急通報装置もあり、監視カメラもついている。また、ある学校は何もない。こういうのを保護者が見た時にどう感じるか。これからは、市民目線で考えて、例えば、松任小学校とか東明小学校はこんな装置が無い代わりに、こんな訓練をしているとか、こういうような対応をしていますと、いうことを、教育委員会がきちっと把握しているのか、装置に代わるような取組がなされているのかなど、やはり行政としては知っておいた方がよろしいのではないかと、いうふうに思います。

それから協議会を立ち上げる時には、皆さん勢いがあるわけで、一丸となって頑張ろうとかなるわけですが、活動を持続していくという時に、会員の方々の高齢化が進み、熱い思いを持った方が少なくなった場合などに、その協議会の運営に行政としてどのように関わっていくのか、という事もちょっと見据えて、末の長い活動をお願いしたい。というような事は思っています。

○教育長（松井 毅）

子供の学校安全に関しましては2つありまして、学校内の安全。そして、学校へ来る、学校から帰る通学途上の安全と2通りあります。

学校内の安全につきましては、今、橋本委員さんが言われたように、池田小学校のあの事件が大きなきっかけとなって、警備員を入れるとか、あるいは刺股を入れるとかで、警備体制もしっかりなった訳です。私の方は、そういった事で、防犯カメラ・防犯ブザーは、学校には必需品ではないかと思っています。入れたところと、入れないところについては、私も基準は分かりませんが、やはり公平にやらなければいけないと思っています。

もう一つは通学路ですけれども、この安全については新潟の件もありましたが、これも見守り隊がいるわけですから、今お話しがありましたように、高齢化が進んで、

必ず全部見られる場所にいるわけではなく、配置されていなかったところに、犯人がちょうど狙い目になったという事ですので、私はなるべく多くの人たちが子供たちを見るような、例えば、買い物一つにしても、なるべく子供たちが下校するような3時から5時にしてもらおうとか、そういった事をしながら、できるだけ多くの人たちが子供たちを見守るといった事を、お願いしていかなければならないと思っています。

そして、防災関係で言いますと、先般の大阪の北部地震がありました、ブロック塀の下敷きになって、小学校4年生の女の子が亡くなるという事件があったわけですが、ブロック塀につきましては、各学校に通学路のブロック塀の点検をお願いしております。8月10日頃までには、全部調査が終わることになっておりまして、その調査結果に基づいて、うちの担当課、建築住宅課ですが、再度点検して、安全性に欠けるような、あるいは、法律に合致していないようなブロック塀については、是正の勧告をしてもらおう。

ただ、相手のある民家については、強制はできません。強制はできませんけれども、お願いをしていくという形になりますけど、やっていきたいと、ただ、撤去するとか、新たに造るとかの場合の補助制度についても、建築住宅課と話をしているのですが、今のところ、壊すだけに制度を考えているとのことですが、ぜひ、造る方もしてほしいなあと思っております。

また、登校後ということで、先般の豊田市で、子供が校外学習に出て、そしてこの暑さのために亡くなるという事案も発生いたしました。この事故からも暑さ対策がマスメディアに取り上げられるようになりました。プールはどうするのか、部活はどうするのかと、いった話もありましたけれども、一番大きく取り上げられたのが、教室のエアコンであろうと思います。

全国公立小中学校の普通教室は、38万8千700室があるそうです。付いているのが19万ほどで、半分以下だということがございます。県内でも普通教室にエアコンが一つも無いという自治体も3つほどあります。おかげさまで白山市の場合は、市長にも大変ご理解を頂きまして、もう残っているのが5校ですけれども、今年に残っている2校、東明、旭丘小学校、来年は3校、鳥中、白嶺小中、白峰小もして、来年で、普通教室には、エアコンを入れる段取りとなっております。ただ、特別教室の図工室、理科室、美術室等には入っていないので、次にはこういったところにもも考えていただきたいな、と思っております。

先般の西日本の豪雨。豪雨災害を見ていると、避難所に小中学校の体育館がなっています。白山市も2次避難所に小中学校の体育館が多いのですが、豪雨災害を見ていると、この暑さに耐えられないものがあるのではないかと。今後、体育館にエアコンということも考えていかなければならないのかなというふうに思っております。

今日の北國新聞の社説を読んでいますと、これからこの体育館にもエアコンをとというような事も出ていました。この辺は国の補助とかがありまして、どうなるかわかりませんが、やはり少し考えなくてはならないのかなと思っております。

もうひとつ心配しているのが、この暑さが8月の頭まで続いて、中頃には落ち着くようですが、8月の終わりにまた暑くなると残暑きびしい。9月頭もまだ暑いという事で、そんな中運動会が9月の8日に中学校、小学校は9月15日と予定されているわけですが、その運動会に向けての練習、また、外でやっていると熱中症とかになるかなという心配もしているわけです。今年の日程を変えるわけにはいきませんが、来年は少し検討していかなければとといったふうに思っている次第です。

金沢市あたりは、5月にやっていますし、野々市の小学校はすべて5月にやっています。

こういったこともありますので、少し時期的なことも考えなくてはならないのかな、そういうふうに思っております。

○市長(山田 憲昭)

率直に言いますと、緊急装置なんかはまったく場当りのだだと思います。計画性はない。必要最低限度、何が必要なかを決めてやらないと、これだとやったもん勝ちと言うより、単に設置して、そのまま放置してあるだけのように感じます。そのようなことから、カメラにしても計画的にやるのだということはぜんぜん見えていない。そこは、どういうふうに最低限どうするのか、計画性を出すということが大事だ、と思っております。

もう一つは、防犯カメラは18年、19年は6台だったのが、今年は18台の予算をみてあるのだけれども、それは、教育委員会と話をしているのか、市民生活部の方で任せているのか、本当は通学路の問題だから、教育委員会が主体となってやるべきだと思います。いつの間にか市民生活部が構っていることになっていますが、もう少し市民生活部がやるにしても、通学路の事であるから、教育委員会がそこに参与していないというのがおかしいな。防犯カメラがどこに付くのかと言えば、PTAや学校の先生が入って

いかないと出来ない話なので、担当が変わったから、私は知りませんと言うのはおかしい。だから防犯カメラをどうするのかと聞いても何も知らない状態だろうと思います。学校とも連携も取れないような話になってはいけません。せっかく増やしてやっても、この際学校としても、教育委員会としても、何処と何処に早く付けてほしい、と入っていく事が大事だなというふうには思っております。

ちょっと防犯カメラに対する教育委員会の認識が薄いという事を、今日は苦言的に言っていますけれど、それと併せて、見守り隊は去年、防犯協会、交通安全協会、老人会等色々な団体があるから、教育委員会でしっかりまとめて把握してくれという事で把握したら、39団体の1,400人以上を超える人たちの数字が出てきたはずですが、それがいつの間にか、協議会ができて、活動している人が800人から900人ということになっている。そうすると、1,400人の頑張っている人たちには、まだベストが行き渡っていないという事になる。そう言う事だろ。それを避けるために教育委員会が全部調べて、どんな団体でも全部ベストをあげて、ちゃんとやってもらうという事で始まったはずなのに、協議会任せになっている。協議会に入っていない人は知らないという事になると、ボランティアの人は怒るよ。せっかく、朝晩ボランティアで一生懸命やってくれているのに、協議会に入っていなかったらベストもくれないのか、辞めたと言うよ。

○生涯学習課長（重吉 聡）

協議会の方を通じて配っているのがありますが、私らの方としましても直接個人に配っているのがあります。

○市長（山田 憲昭）

1,400人という人が把握できたのであれば、その人たちに、教育委員会がすぐに分かるようにしてやっていかないと、それは、あくまでも1,400人に行き渡らすことをしないと、協議会だけ入った人に分けるというのは絶対だめだし、では、いつまでにやるの。

協議会は協議会で色々な勉強会をすればいいのですが、実際にやってくれている人たちの感謝の気持ちも含めて教育委員会がそれを把握していないといけません。その中でいろいろな連絡会などを行えばいい。教育委員会が協議会に任せたといい発想はだめだ。そのボランティアの人たちは、それがもらえないことに心外になるだろうし、ましてや、ベストをもらえないのであれば辞めた。となってしまった場合は、大変なことになるだろう。何のためなのか、防犯カメラにしても、ベストにしても、どこかずれが出てきて

いるのではないかと、思います。そこは、人の気持ちをしっかり把握した中でやっていくことをしてもらいたい。

ブロック塀については、他の例で、取り壊しの補助があるようですが、あくまでも教育委員会だけで考えるのではなく、通学路だけではなく、一般の人も当然入っていますので、一般の人も含めた形でどうするか、うまく補助制度ができればと思います。

いずれにしても、予算の性質がずれていったら、逆に、ベストの問題は、良いことが悪いことになっていったら大変なことになる。PTAの幹部と話をしている、自分たちでしなければいけないことを、地域の人たちにしてもらっている気持ちはある。

しかし、感謝の気持ちを持っているけれども、我々は仕事を持っているからできない。だから、色々な行事でも何かお手伝い出来ることがあればしよう。そんなような形もあります。

また、せっかくやろうとする時に、これをうまく活用する。言い方は悪いかもしれませんが、地震で子どもが亡くなって痛ましいことがあった。じゃ、どうするのだ。というきっかけにしてでもやっていくとかになるのではないかと。これは、財政の問題というより、計画性の問題で、計画がないと前に進んでいかないと、思います。以上です。

これについて何かありますか。

○委員（北田 朋幸）

今年の予算で防犯カメラを18台設置されますが、地域安全課の方に委託されているのですね。

○市長（山田 憲昭）

市としては地域安全課になっていますが、教育委員会が通学路の主管で、主導権を取られたことがおかしいのでは。

○委員（北田 朋幸）

それはどこの窓口で折衝するのですか。

○市長（山田 憲昭）

少なくとも地域安全課が学校と連携を取っているはずですが。

○教育長（松井 毅）

調査は確か地域安全課が学校に調査依頼を行っていたと思います。

○学校教育課長(古川 孝志)

はい、地域安全課から学校教育課を通して学校に、何処が危険個所であるかというアンケートを取って、それを地域安全課が集約しています。来年度からは、学校教育課とPTA連合会が協力して、毎年3月から4月上旬にかけて、全通学路の交通安全に対する点検をしています。そこに、交通安全の要素、防災の要素、防犯の要素を入れて、やるという事になっています。

○市長(山田 憲昭)

来年からと言いますが、今年の18台のことです。

何処に設置されるか知っていますか。

○学校教育課長(古川 孝志)

それについては、分かっていません。

○市長(山田 憲昭)

そうでしょ。だから人ごとになっているということですね。

○学校教育課長(古川 孝志)

今、何処に付けることになったかは、課長どうして話をしています。

○教育長職務代理人(橋本 外志)

今の防犯カメラは通学路に設置するのですか。

○市長(山田 憲昭)

通学路がメインです。一番最初にあったのが、国道等からの横断がまずあぶないからやろうということで始めました。一か所で3つのカメラを付けなければいけないのではないか、左右真ん中が必要でないか。そんな事を言っていると中々進まないとのことで、1箇所ずつやってきましたが、それではペースが遅いということで、一気に6台、6台を18台に上げました。

○教育長職務代理人(橋本 外志)

学校へアンケートを出したという事は、学校の方が知っているのですか。

○学校教育課長(古川 孝志)

自分の学校の何処へ付けてほしいかは要望をしていますが、要望箇所全部に設置されるわけではありません。地域安全課の方で考えて設置されます。

○市長(山田 憲昭)

18か所を、何処が優先かと協議して設置していきます。だから、そういう事を知ら

ない事もおかしいと思います。だから難しい事ではなく、一緒にやればいいことかと思
います。

○教育長職務代理者（橋本 外志）

学校にすれば要望をしたけど、付くか付かないかは分からないということですね。

○学校教育課長（古川 孝志）

設置する段階になって、どこに付くかの連絡があります。

○市長（山田 憲昭）

やはり教育委員会が知らないのはおかしい。少なくとも知らせてね、との関係がない
といけない。

○委員（竹内 千恵子）

これは多分、組織が縦割りで動いているのだなと思います。横断的な情報共有がない
のだなと、市民が分かったらそういう印象を持つと思います。やはり財源が限られてき
ているので、有効に使う時には、縦割りの分担でない発想で、役所もこれから動いてい
かないと、限られた財源も有効に使われないのではないかな、使ったけれど、全然担当
が違ったらほったらかしというのではもったいないと思います。

これからはそういう発想で、白山市役所・教育委員会は横断型でお願いしたいと思
います。

○市長（山田 憲昭）

もちろん、広場の安全のためのカメラもありますが、それも子供に関係したことです
ので、教育委員会が知らないといけない。通学路に限定したわけではなく、広場でも一
緒です。よくよく連携を取って下さい。

それでは次に移ります。

②今後の小学校外国語教育について事務局より説明をお願いいたします。

○学校教育課長（古川 孝志）

（資料3 「小学校外国語教育について」）

《資料にて説明》

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。この件につきまして水洞委員からご意見を頂きたいと思えます。お願いいたします。

○委員(水洞 満子)

ここにある資料の他に、先日、日本の小中で英語を教えているALTの人は、どう思っているかの資料を頂きました。それも含めてなんですが、1学期に東明小学校を訪問しました。東明小学校は英語専科の教員がいる学校で、東明小の英語の授業は、英語だけを教える先生と、ALTの人のチームティーチングでした。それを見て、ALTの感想文を見ると、ALTの人は英語専門の人がいると、理想通りの授業が出来るようになる。全体的にALTの感想文を読むと、一緒に授業をする日本人の英語力が無かったり、上手く打合せが出来なかったりする。そうするとなかなか思ったような理想の授業が出来ないという感想があったので、英語の専門の先生が、2020年に向けて、小学校で英語専科の先生がいるといいなと思いました。

もう一つは、ALTの人がもっと先生方に自信をもって授業をしてほしい。日本人は、ちょっとした文法のミスや単語のミスを指摘するが、ミスにはもっと寛容になるべきである。日本人の教師は、せつかくALTもいるので、英語の必要性をもっと子供に伝えなければならない。生きていく上で、必要性を感じられないものは、学びたい人はいないと言うような感想が出ています。また、最近思うのが、英語の授業もそうなんですが、たくましい人を育ててほしい。あらゆる教科で完璧を求めない、ミスを恐れない、チャレンジ精神旺盛な子どもを育ててほしいなと思います。

学校訪問をすると、分刻みで余裕が無い感じがしますので、英語教育からは外れますが、大らかな、英語をミスしても頑張ろう、聞きたい事を伝えたい、知りたい事を持つ子供を育てれば、ALTの人がいたらもっと積極的に活動できるし、そういう子供たちが先生になった時に、もっとユニークな大らかな教育ができるのではないかな、など思ったりはします。

英語は大事なのですが、英語力を付ける時にも、国語力とか、読解力もきちんと育てることが大事ななと思います。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。引き続き竹内委員からご意見を頂きたいと思えます。

○委員（竹内 千恵子）

私も本質からずれるかもしれませんが、新聞記事で、他市町では何年度に何時間とか一覧表がでると、何となく、えっ、白山市は大丈夫なのかな、というふうに思います。だけど大事な事は、早く始めればよいという、あるいは時間数が多ければよいという問題では私はないと思います。これらについては、高名な大学の教授の間でも、やはり国語力が先だというお話もありますから、私が大事にしたいのは、先ほどの市長さんではありませんが、計画性があるのかと、どういう人材を、どういう子供たちを育てたいのか、という事を白山市が持っているのか、という事がとても気になります。そのために、いつ頃、どのような事をしなければならないのか、というような事を考える必要があるのではないか、と私は思います。

学校を訪問していて、先生方は緻密に色んなことを言われますが、私は一つだけ気になることがあります。よく「本校の生徒は地域の方に守られて、一生懸命地域の行事に参加しています。」とお話をされますが、それは大変結構な事だけれども、一方で、この子供たちは生涯この地域に居るのか、ひとり一人の子供たちには可能性がとてもあるので、何年後には、日本を代表するような科学者になるとか、スポーツ選手になるとか、芸術家になる可能性もあるという事を、きちんと先生方は分かって、子供の可能性を捉えて指導しているのかということです。

第2次白山市総合計画の国際教育の所を見ましたけれども、どちらかと言うと国際協会頼みというようなところが感じられるし、市として、こういう人材を育てるのだと、この地域で育てていくのだ、それから、観光で世界ジオパークの認定を受けて、外国の人にも来てもらうとか、外国から色んな人が来るのだという時に、きちんと土台が育っているのか、育つのか、というのがずっと、実は、この2年半ほど学校訪問していて思っていることです。

戦略的に、あまり周りの報道に惑わされることなく、市としてきちんとしたものを持って、グローバル化に対応できるような子供たちを育てて頂きたいというのが思いでございます。

小学校のALTの授業や中学校の授業を見ていたら、これは担当者によってとても差が大きいなど、それは別に英語に限らず、数学や国語や社会だって一緒なのですが、英語が今から入って来た時に、やはり担当者の力量によるところが大きいかなと思います。

教科書を教えるに当たって、ALTを使ってテープレコーダーのように使うあるいは、

ALTに丸投げ。言葉は悪いですけど、お任せみたいな。指導案はもう書かないという
ような先生もおいでます。あるいは、先ほど水洞さんが言われたように、チームティー
チングとしてきちんと機能していく。これは担当者によって、多分今から分かれていく
と思いますが、やはり市の教育委員会としては、できるだけ均一になるような、担当の
差によらないような施策は考えて頂きたいと思います。

我々は忘れてはいけないのが、ALTというのは、英語をしゃべっているだけです。つ
まり、私たちがどこかの国に行って、日本語をしゃべるようなものなので、特別に訓練
を受けて入って来るような人はそんなにいません。やはりALTの力をきちんと見極めて、
教育委員会は学校に送らないと、学校現場が振り回されてしまうなという印象は持って
います。

白山市は大きいから、午前中小学校、午後中学校に行つてね、と例えば、松任小学校
と松任中学校なら可能ですが、鶴来中学校に行つてから白嶺に行くとか、白峰に行くと
かは、大変ロスが多いと思います。ALTは車の運転は出来ないわけですし、公共交通機
関もそんなに無いので、やはり数は確保しなければいけないと思いますが、確保した上
で、きちんとALTの技量を見極めて、教育委員会が音頭を取つてきちんとしたものを、
学校現場に送らないと、学校が混乱して、学力どころではなくなってしまう。英語が好
きな子と嫌いな子だけを育ててしまうのではないかなと私は思います。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございます。引き続き橋本委員からご意見を頂きたいと思います。

○教育長職務代理者(橋本 外志)

私は若い時分、街角で外国人を見ると物珍しく、どちらかと言えば道を避けて、よけ
て通る感じでしたけれど、今や、金沢の21世紀美術館の前には、日本人よりも外国人
が多いと言う時代になりました。

そうすると、挨拶でも声をかけたいなと思いますが、なかなか出てこない。私も、今、
竹内さんや水洞さんも言われましたけれど、この学習指導要領が出る前に、やはり外国
語を早期に指導することが良いのか悪いのか、という声がいくつかありました。私もど
ちらかと言うと、やはり日本語をきちんとマスターして、そしてやっつて行くべきでない
か。小さい頃に、二つの国の言語を教えるのもいかなものかという考えを持っていま
したけれども、指導要領はきちんと定まった以上、この形でいくべきだろうと思います。
世界中でグローバル化が進行していくと、今や、例えば、外国の大きなケーキメーカー

が地方の農家に、リンゴやさくらんぼを注文する時代になった。そうすると、多少の英語をしゃべれないと何にもならない。

もう一つは、韓国が20年程前に、小学校3年以上に英語を必修としてきた。韓国もそういう歴史があって、非常に英語力が伸びてきている。小さい時から英語を必須化しても、韓国語の修得には悪影響はなかったと。

そして、もう一つは、サッカーワールドカップの長友選手は、物心をついた時からサッカーボールを蹴っていました。そういう事を聞きますと、やはり小さい頃から外国語、英語に親しむこと、そして、それが楽しいということを知って、そして外国の方と、話をしたい、コミュニケーションを取ってやっていきたい。それがまた、豊かな人生を築く一つの礎になるのではないかな、そういう思いで次期学習指導要領を見ております。

ただ、学校の先生方の負担というのは、かなり大きくなっていきますし、小学校3年から外国語活動を学ぶと、また、高等学校、大学は、入試のことを考えると、英語塾が流行ったり、極端な英語熱心な母親と、小さいころから英語塾へ連れて行く、そういう現象も起こりかねないとの懸念も持っています。教育現場では、先生方が外国語活動、外国語教育、英語教育がきちんと行われて、子供たちにしっかりと、身に付くような環境整備の一環として、ALT若しくは、ALTがいなければ、市内在住の英語の経験のある方を、学校現場に送っていくことが、大事なことはないのかと、いうふうに思っております。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。引き続き北田委員お願いいたします。

○委員(北田 朋幸)

先ほどから水洞委員他からも出ていますが、ALT自体が日本の教員と上手くコミュニケーションが取れていないという部分が一番ネックかと思います。やはり学校では模擬授業をやって行く中で、はたしてALTを呼び込んで、ちゃんと英語の模擬授業みたいなことをやっているのかどうか分かりませんが、(me to native speaker) 英語をしゃべれる人と学校の先生とのコミュニケーションが取れていないと絶対に生徒に伝わることがないので、その辺が重要な部分ではないかと思っています。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。引き続き小寺委員お願いいたします。

○委員(小寺 正彦)

私とか、平均的な人は、大体8年間の英語を勉強しています。ですが、全然英語がし

しゃべれません。今ALTを通して、小学3年生から始めて英語を耳から聴くことによって、大分しゃべれる人が増えるのではないかと。やはり、じかに生な英語を耳から入れることをやってほしいなとつくづく思います。ちょうど指導要領も新しくなったので、ALTを充実して頂きたいと思います。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。引き続き教育長お願いいたします。

○教育長(松井 毅)

私も実は、英語の前に日本語をしっかりともっとしゃべるべきではないかと。ほんとうに、今の人たちはどうなのかなと思うくらいに日本語が乱れているなあと、実感いたします。だから、英語はその次かなあと思うのですが、しかし、これだけグローバル社会、経済も人間の交流も、ほんとうに世界が一つになって近くなってきているのか、やはり英語は、ひとつ身につけなければならない言葉のツールであろうと思うので、その辺はしっかりやっていかなければならないなあと考えております。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。

私は、ALTについては何年も前からありましたが、何をやるのだろうと疑問に思っていました。ALTは、英語の先生ではない。日本に行きたいと言ったら、こんな制度があるといっているだけで、教えるつもりはない。日本の子供と遊びたいという感じだけです。それを、英語の授業でなく、外国人と生活を楽しむという感覚で捉えないと、ALTが英語を教えてくれると思ったら大きな間違いです。おそらく英語を教えていないのではないかと。教えるという技術を持っていない。それを勘違いして、ALTだけを送るとけば大丈夫だというような発想なら、逆に無い方がよい。英語という物を生活を通じて覚えるというだけで、学問的に教えるのは、やはりALTではない。

今年から国際協力員で来た人は、完全に資格を持って来ています。ALTは資格も何もない。来たいと言ったら、はいどうぞです。それで、教育委員会は、学校にさえ送っておけばと思っていたら大きな間違いです。英語の先生から言わせば、あんなことをやってもらっては困る。結構、本当は出ている話だと思います。

○学校教育課長(古川 孝志)

中学校の英語の先生の中には、人によってはその通りです。だれがALTなのかによつては、いい相棒の人と、うまくいかない相棒の人がいます。

○市長(山田 憲昭)

そういう意味では、ALTの活躍の場所は、教室の中というよりも、生活面にもっと出していく形の方が、ほんとうはいいのだと思います。これから、どんどんやっていって、英語の先生がもっと小学校まで、英語の先生がそんなに採用ができるのか。それをALTで補おうと思ったら、絶対に失敗します。そうではないから。今後ALTを、10人を15人にする発想ではないと思います。子供に英語を習わすことと、ALTの数とは全然違うと思います。英語を教える人だけを採用できるか。県の教育委員会と連携を図る必要があると思います。

2日程前でしたか、ALTがイギリスへ帰りましたが、「楽しかったか」と聞いたら、「楽しかった。ホームシックにならなかった」と言っておりましたし、「今度、何をやるんや」と聞いたら、「ユネスコ本部に行く」と言っておりました。「今度ジオパークやっていますからよろしく」と言っておきました。

だから、そこは、ALTの感覚と、小学校へ英語が入っていくこととは別物にしないといけない。英語が教えられない人が、ALTに任せたら、めちゃくちゃになるな。

中学校は英語を教える人がいて、そこにALTがいるから何とか上手くいっている。英語を教える人がいないところに、ALTに任せたら、もう、教えないのと一緒です。

○委員(竹内 千恵子)

もちろん、ALTにしか出来ないこともあります。異文化を伝えるとか、ショートエッセイと言いますか、英語を直す時に、日本人が辞書をみて直すより、ALTが即座に直すことが出来るわけですから、そういう所は上手く、活用していかなければならないけれども、教育委員会の仕事も大変になるだろうなあという事は思います。でも、数はいりますよね。

○市長(山田 憲昭)

対象者も増えるという事は数もいります。間違いありません。中身の事が違うという事です。

○教育長職務代理人(橋本 外志)

我々がアメリカへ行って指導すると、外国の日本語のALTということになるということですね。

○教育長(松井 毅)

橋本先生は違うけれども、我々がそうなんです。

○市長(山田 憲昭)

我々が行ってやることなんです。学校の先生が行ってやるのであれば万々歳なんです
が、学校の先生でない一般の人が行くんだから。

○委員(竹内 千恵子)

ただ、教職を経験したALTも来るんです。教職を経験したALTが来ると非常に有り難い
んです。だから、その人を中心にALTを教えてもらえればいいんです。彼ら彼女らを中心
に、きちっと教育というものはこうなんだ、日本の教育システムはこうなんだという
事を、うまくきちんと彼らを通して教えればいいかなと思います。

○学校教育課長(古川 孝志)

週一回必ず水曜の午後は、ここにALTが集まりますので、経験豊富な上手いALTが若い
人たちに教える、授業の中身はどんなことをしているのか、情報交換したり、授業の進
め方だったり。また、先ほどからお話がありましたように、今、日本人が主になって
教えなければならないから、東明小学校と松任小学校を研究指定校に充てています。こ
こ2年間で、この2校を研究指定校にして、ALTとのTT(チーム・ティーチング)の形
を研究して市内の学校に広めていくこととしています。

現状で言うと学校による凄いい差があります。教員の若い子らは、結構英語に馴染んで
から先生になっているから、上手にやれるし、中堅からベテランとは差があります。拒
否反応を示している人と、馴染んでいこうとする人との差は埋めていかなければなら
ないと思います。

今、言われるように、ALTは主ではない。先生が主になって教えて、ALTをどう活用す
るかに、変えて行こうと。

今、学校教育課の英語の部門の指導主事も入っています。やはり、小学校5・6年生
で英語活動をするようになってから、すごく英語に対する恐怖感の少ない、馴染んでい
る子が増えてきています。すごく取っ付きがいい。ただ、個人差も出てきています。

中学校1年生では、今までは同じレベルで教えられたのですが、すごく取っ付きのよ
い子が増えたのですが、逆に拒否反応を示す子らも数人出てきているのが現状です。
そこがもう一つの課題かと思います。そういう子らを出来るだけ作らないようにしてい
かないとダメだという事です。

○市長(山田 憲昭)

それは文科省に向いて言わなければならない事のようにですが、ただ私は、ALTは大事

だけれども、ALTに頼るような形であるなら増やす必要もないような気がします。専門性を持った人が教えることがもっと大事だというふうに思います。

時間が超過しましたが、話の中で色んな事がありましたけれども、少なくとも安全安心の問題につきましても、もっともっと、タイムリーな問題でありますから、委員会としてもどんな方向性が出るのか、そういうことを含めて、きちっと計画性の中で、学校にいる子供たちのためにどうするかを含めて考えて頂きたいと思っている次第であります。今日はどうもありがとうございました。

○次長兼教育総務課長（吉森 昭一）

本日は貴重なご意見ありがとうございました。大変有意義なご意見が聞けたと思っております。これで平成30年度第1回白山市総合教育会議を閉じさせていただきます。みなさん、どうもありがとうございました。

閉会 午後5時30分